

令和4年度 重点取組事項 (管内概要)



ブナの霧氷



国民の森林・国有林

林野庁 東北森林管理局

置 賜 森 林 管 理 署

〒999-1352 山形県西置賜郡小国町大字岩井沢581-45

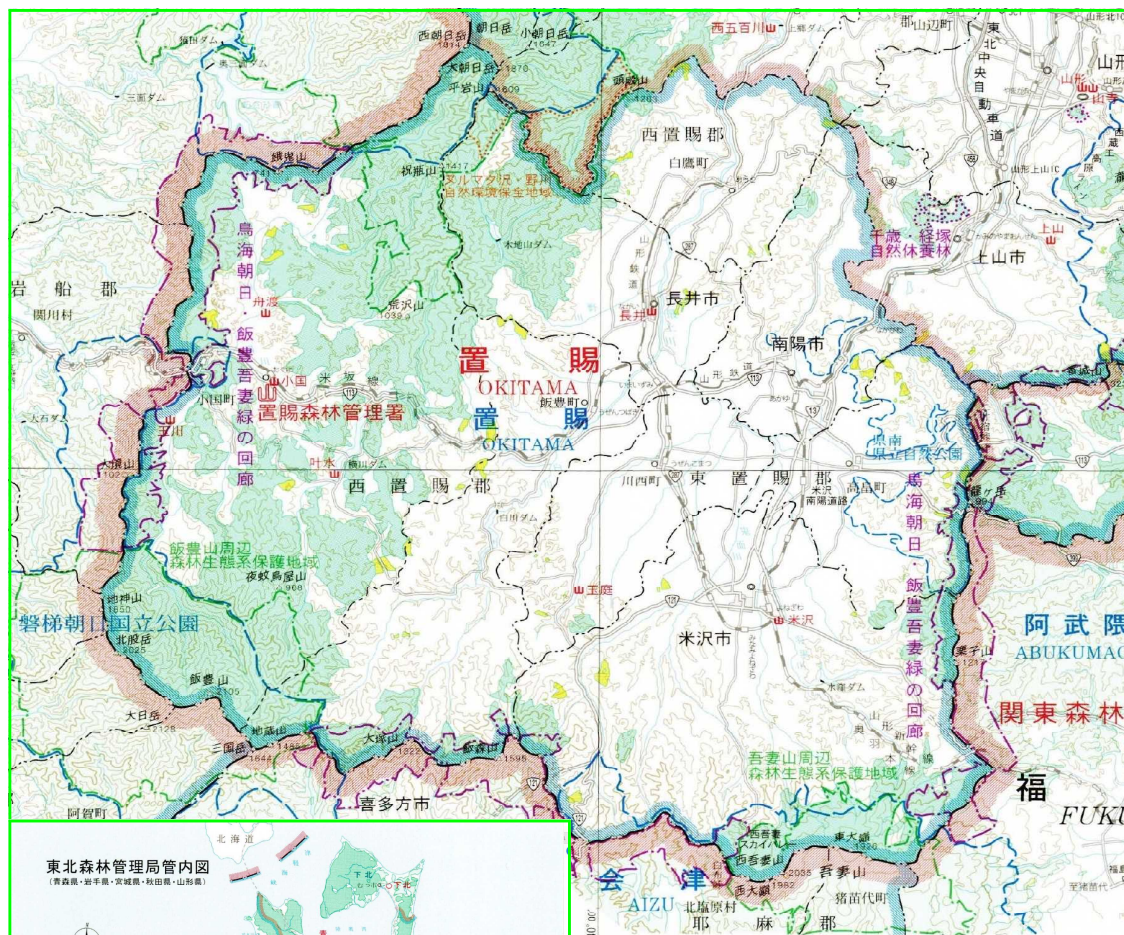
TEL 0238-62-2246 IP 050-3160-5860 FAX 0238-62-3553

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/sho/okitama>

I 管内の概要

置賜地域は、山形県の南部に位置し、出羽丘陵をはさんで東南置賜（米沢市、南陽市、高畠町、川西町）、西置賜（長井市、白鷹町、飯豊町、小国町）の3市5町からなっており、東西56km、南北57kmで総面積2,496km²を有し、県総面積に占める割合は、約27%です。

置賜森林管理署は、この地域の31%、森林面積の40%を占める国有林野（官行造林地を含む）7万7千haを管理経営しています。



- 国有林
- 官行造林
- 森林管理署
- 森林事務所

【置賜の由来】

アイヌ語のu (ウ) - ki (キ) - tomam (タム) (「広い、葦の生えている谷」という意味) が語源と言われています。江戸時代上杉藩のころは、「ヲイタマ」または「オキタマ」と呼ばれ、明治時代に入り、米沢県から置賜県に改称、公的に「オキタマ」という呼び名が普及したと考えられています。

Ⅱ 公益重視の管理経営の推進

1 保安林、自然公園等の指定

- ① 管内の国有林は、最上川と新潟県に流れる荒川の源流部の重要な水源地帯に位置し、水源の涵養、土砂流出防備等に大きな役割を果たしていることから、国有林の98%が保安林に指定されています。

保安林種類別面積(R4. 3. 31現在)

区分	水源かん養	土砂流出防備	干害防備	なだれ防止	保健	合計
面積(ha)	63,308	(10,459) 11,645	502	(465) 54	(266)	(11,239) 75,509

- 注 1 () は重複する保安林面積で外書です。
2 管内国有林に占める保安林の割合は、98%です。

- ② ブナなどの天然林等が森林面積の90%を占め、それらの森林が朝日連峰、飯豊連峰及び吾妻連峰の2千m級の雄大な景観を形成しており、管内の国有林の22%が国立公園等に、37%が鳥獣保護区に指定されています。

自然公園等の面積(R4. 3. 31現在)

区分	自然公園		鳥獣保護区
	国立	県立	
面積(ha)	17,128	1,017	28,633
割合(%)	22	1	37

- ③ 管内の国有林には、山形県指定の史跡「飯豊山の穴堰」(飯豊町、小国町)、天然記念物「小国のそろばん玉石」(2ha、小国町)、「山形県ヌルマタ沢・野川自然環境保全地域」(765ha、長井市)もあります。

2 適切な森林整備の推進

地球温暖化防止など森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるよう、人工林の下刈、除伐、間伐等の森林整備を推進しており、令和3年度には、地拵25ha、植付25ha、下刈65ha、除伐16ha、保育間伐54ha、間伐86haを実施しました。

令和4年度は、地拵19ha、植付19ha、下刈37ha、除伐27ha、保育間伐19ha、間伐107haを行う予定です。

また、ツキノワグマによるスギの樹皮剥ぎ(クマ剥ぎ)の被害が広がっていることから、効果的な防止対策とその検証を行います。



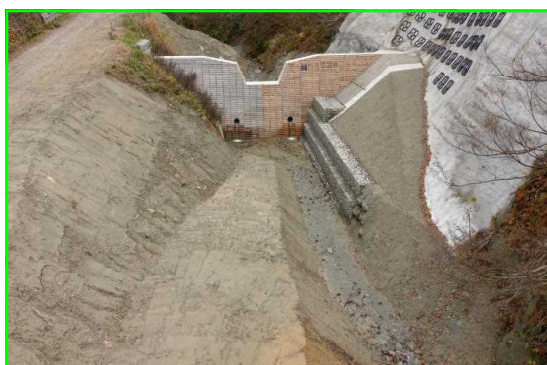
防護対策の状況 右はクマ剥ぎ被害木

3 地域の安全・安心を確保する治山事業

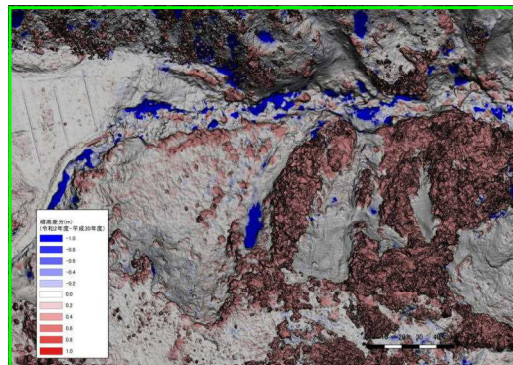
地域の安全・安心を確保するため、治山事業を実行しており、令和3年度には米沢市の「蟹ヶ沢地区」において強制排水補修工、「松ノ沢地区」において溪間工1基を実施しました。

令和4年度は、米沢市の「蟹ヶ沢地区」において強制排水補修工、小国町の「松ノ沢地区」において溪間工1基をを行う予定です。

また、令和3年度の調査業務においてはICTを活用した地すべりの観測に取り組み令和4年度も引き続き行う予定です。



松ノ沢第二治山工事



蟹ヶ沢地すべり調査業務

4 「保護林」と「緑の回廊」

管内には、貴重な野生動植物が生息・生育するなど豊富な森林生態系を有するブナ林等の天然林が多く、国有林の3分の1が保護林に設定されています。

特に、森林生態系保護地域は、原始的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するため設定するものであり、管内には、「飯豊山周辺森林生態系保護地域」、「吾妻山周辺森林生態系保護地域」及び「朝日山地森林生態系保護地域」の3箇所が設定されています。

また、これら保護林を連結する緑の回廊として、「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」が設定されています。

保護林の種類別箇所数・面積(R4. 3. 31現在)

保護林の種類	箇所数	面積(ha)
森林生態系保護地域	3	24,878
生物群集保護林	1	1,043
希少個体群保護林	2	16
計	6	25,937

森林生態系保護地域の面積(R4. 3. 31現在)

単位：千ha

区分	朝日山地	飯豊山周辺	吾妻山周辺	計
東北森林管理局	48	11	4	63
置賜森林管理署	10	11	4	25
他署	38	—	—	38
関東森林管理局	22	16	8	46
計	70	27	12	109

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の延長・面積(R4.3.31現在)

区 分	延 長(km)	面 積(千ha)
東北森林管理局	235	47
置賜森林管理署	65	11
他署	170	36
関東森林管理局	25	17
計	260	64

「保護林」とは

国有林は、奥地脊梁山地に広く分布しているため、優れた景観を有し、多様な動植物が生息・生育している原生的な天然林が多くあります。それらの森林を保護するため、「保護林」を設定しています。

保護林には、森林生態系保護地域、生物群集保護林、希少個体群保護林の3種類があります。

「緑の回廊」とは

森林生態系保護地域をはじめとする保護林のネットワークを形成し、野生動植物の移動の経路の確保、生息・生育地の拡大と相互の交流を促すため、設定されています。

森林生態系保護地域の保全管理

森林生態系保護地域の適正な保全管理のため、自然保護団体と共同で湿原の植生回復事業を行うとともに、環境省主催の「磐梯朝日国腔公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会」へ参画し、関係行政、学識経験者等有識者との情報共有、活動方針等に係る意見交換や、朝日山地森林生態系保全センター主催の朝日山地森林生態系保護地域合同パトロールへ参加しています。

また、森林保護員（グリーン・サポート・スタッフ）による巡視保全活動を行っています。



自然保護団体と共同の植生回復事業



植生保護のための立入り規制（吾妻山）



森林生態系保護地域表示板整備（飯豊山）



歩道沿いの危険木合同調査（温身平）

5 森林ふれあい活動

当署では、森林・林業や国有林の仕事に理解を深めていただくため、関係機関と連携して、地域の方々及び小学生等を対象にした森林教室、木工教室、植樹体験を実施しています。

白い森づくり体験事業（町、小学校、林業事業体との連携）



頑張って植え穴を掘ります



コンテナ苗を植え付けます



植樹体験を終え、満足げな生徒たち



植樹体験後の森林教室、高性能林業機械による造材作業から、木材の使われ方などを学びます

また、国有林のフィールドを様々な活動の場として提供するため、旧越後米沢街道十三峠の1つ小国町の黒沢峠の保全活動に取り組む「黒沢峠敷石道保存会」と平成23年度に東北森林管理局では初めて「多様な活動の森」の協定を締結し、敷石道の保存活動が継続されています。



黒沢峠の敷石道



保存会と敷石道沿いの森林整備の検討

Ⅲ 林業の成長産業化に向けた取組

農林水産業・地域の活力創造プランでは、人工林が本格的な利用期を迎える中で、豊富な森林資源を循環利用することが重要としています。このため新たな木材需要の創出、国産材の安定的・効率的な供給体制の構築などを目指し、山形県が推進する「やまがた森林ノミクス」とも協調・連携しながら、置賜管内の林業の成長産業化に貢献し、山村地域の振興につながるよう各種の施策を進めています。

1 民有林行政との連携・支援

市町村が進める森林経営管理制度や民有林の集約化施業の推進について、当署森林総合監理士が主体となって協力します。



森林づくり住民説明会（黒沢地区）

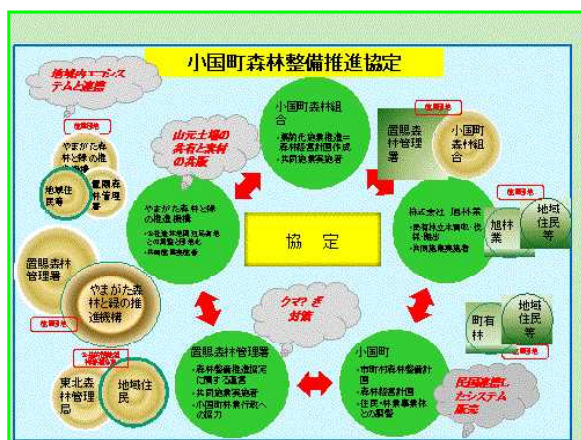


森林づくり住民説明会（種沢地区）

2 森林共同施業団地の設定

令和4年3月1日付けで、小国町森林組合、株式会社旭林業、やまがた森林と緑の推進機構、当署の5者で締結した「小国町森林整備推進協定」は、民国の施業団地にとらわれず、民有林の集約化による施業団地をいくつも設定して小国町内の森林・林業の活性化に向けた取り組みを行います。

米沢地方森林組合、南陽市と締結してきた「南陽市水林地区森林整備推進協定」については、令和4年4月1日付けで協定を更新し、引き続き連携した森林整備につながる取り組みを推進します。



3 木材安定供給の推進

木材の安定供給と適切な森林整備を図るため、搬出間伐等に積極的に取り組んでおり、令和3年度には、11,406m³の国有林材を伐採・搬出しました。

搬出した木材は、木材市場への山元販売委託により販売したほか、木材安定供給と利用拡大を図るため、企画競争により選定された、国産材の需要拡大や加工の合理化に取り組んでいる木材加工事業者に安定的に販売する「システム販売」により販売をしました。

令和4年度は13,000m³（うちシステム販売7,800m³）の伐採・搬出・販売を予定しています。



ストックポイントでの巻立作業

4 路網整備の推進

路網とは、森林内にある「公道」、「林道」、10トンの積みのトラック等の林業用車両の走行を想定する「林業専用道」、フォワーダ等の林業機械の走行を想定する「森林作業道」のことです。

造林、保育、伐採・搬出等の森林施業を効率的に行うため、作業現場へのアクセスの向上等に不可欠な施設であり、林業労働条件の改善にも寄与することから、路網の整備を進めることが益々重要となっています。



令和3年度新設「極楽峠林道」

令和3年度は、林業専用道の新設1路線1,400m（上層路盤工・排水工含む）、改良2路線95mを実施しました。令和4年度は、林業専用道の新設1路線985m（上層路盤工・排水工含む）、改良3路線104mを予定しています。

5 低コスト林業と地域材利用拡大の推進

① 伐採・再造林の低コスト化の取組を図るため、平成27年度から、伐採と造林を組み合わせる事業を行う「一貫作業システム」を導入し、令和3年度は7ha実行しました。併せて、コンテナ苗を活用することで、一貫作業システムによる効率的な作業とコスト低減への取組を推進しています。

② 令和4年度についても、引き続き一貫作業システムを導入するとともに、林齢に応じて画一的に実施してきた下刈についても、現地の状況により、必要性に応じた実施回数等を判断したうえで実行することとします。また、再造林の植栽本数についても、保安林は指定施業要件を勘案し約2,400本/ha。それ以外は、2,000～2,200本/haで計画することとし、これらの取組を通じて低コスト林業を推進します。

③ 置賜地域における生産材の有利販売と広葉樹利用拡大を目的として、生産現場において採材検討会を開催するなど、民国連携による地域林業の活性化に向け取り組んでいます。

また、スギ等人工林の針広混交林化を図り、広葉樹材の生産量を増やすことを

目的として、人工林において天然木保全の検討会を実施します。



一貫作業システムによる高性能林業機械作業



植栽機具による植え付け作業



採材検討会



天然木保全の検討会

IV 主要事業量

○収穫量	国有林	68千m ³				
○生産事業	生産量	13千m ³				
○造林事業	新植	19ha	下刈37ha	除伐27ha	保育間伐19ha	間伐107ha
○林道事業	新設	1路線	985m	改良	3路線	104m
○治山事業	谷止工	1基				
	強制排水補修工	1地区				

V あなたのまちの国有林

米沢市

総面積の76%が森林で、国有林がその23%を占めています。

米沢市内の国有林の大部分は、保安林整備臨時措置法に基づき昭和29年以降に買い入れた国有林がほとんどで、市南東部にある吾妻山系の北部、最上川源流部に位置しています。

原生的な天然林が多く、貴重な森林については、平成7年に「吾妻山周辺森林生態系保護地域」に設定されています。また、磐梯朝日国立公園にも指定されています。

天元台地区は、「野外スポーツ地域」に指定しており、登山客やスキーヤーが年間を通じて訪れています。

南陽市

総面積の約60%が森林で、国有林がその3%を占めています。

南陽市内の国有林は、市北部の水林地区にあり、全域が水源かん養保安林に指定されており、豊富できれいな水の確保に貢献しています。

当地は、吉野川の源流部で、江戸の頃より米沢の上杉藩が「水御林(水林)」と定め、下流の水源確保に努めた歴史があります。

高畠町

総面積の約58%が森林で、国有林がその13%を占めています。

高畠町内の国有林の大部分は、町の東部、奥羽山系の西部に位置し、龍ヶ岳から豪士山にかけて県立自然公園に指定されています。

全域が水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定されており、水源の確保や国土の保全等に貢献しています。

川西町

総面積の47%が森林で、国有林がその2%を占めています。

川西町内の国有林は、町の南部浅俣地区に位置し、米沢市に接しています。

浅俣のヒメコマツは、低山(360~470m)に群生している貴重な天然林であることから、「希少個体群保護林」として保護に努めています。

長井市

総面積の約68%が森林で、国有林がその61%を占めています。

長井市内の国有林は、市の西部、朝日山系の東部に位置しています。

野川上流部は「野川風景林」に指定しており、木地山ダムからの景観は多くの人々に親しまれています。

これらの全域が土砂流出防備保安林や水源かん養保安林に指定されており、複層林施業等の公益的機能を重視した森林整備に努め、国土の保全と下流住民に豊富できれいな水を供給しています。

白鷹町

総面積の約65%が森林で、国有林がその9%を占めています。

白鷹町内の国有林は、町の西部に位置し、葉山及び藤堂山の東部に位置し、朝日町に接しています。

全域がブナやミズナラを主とする広葉樹天然林で、水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定されており、水源の確保や国土保全に貢献しています。

飯豊町

総面積の約84%が森林で、国有林がその22%を占めています。

飯豊町内の国有林は、大部分が町の南部、白川の源流部に位置し、福島県に接しています。

これら森林は、ほぼ全域が水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定され、公益的機能の発揮等の役割を果たしています。

「大日杉野営場」は、「森林スポーツ林」に指定され、地蔵岳から飯豊本山に至る縦走コースの登山基地となっています。また、地蔵岳周辺の優れた山岳景観は「飯豊風景林」として森林レクリエーションの場として活用されています。

小国町

総面積の約94%が森林で、国有林がその72%を占めています。

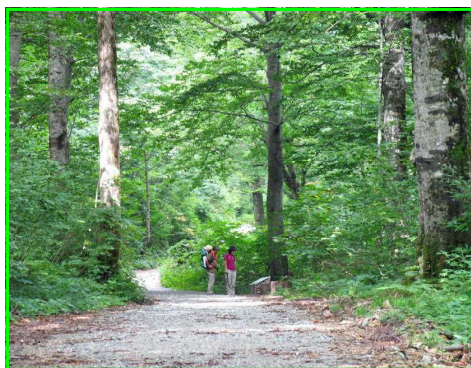
小国町内の国有林は、町の全域に分布し、北部地域の森林は朝日山系の南側に位置し新潟県と、南部地域の森林は飯豊山系の北側に位置し新潟県及び福島県と接しており、両山系とも磐梯朝日国立公園に指定されています。

両山系に属する貴重な森林は、平成4年に「飯豊山周辺森林生態系保護地域」、平成15年に「朝日山地森林生態系保護地域」に設定され、原始的で多様な森林と野生動植物の保護に努めています。

また、温身平風致探勝林など5箇所がレクリエーションの森に指定され、森林とのふれあいの場として自然景観を維持しつつ活用されています。

この温身平は、平成18年に日本初の森林セラピー基地に認定され、また、平成29年1月にはモデル的なレクリエーションの森として「日本美しい森お薦め国有林」（全国100箇所）にも選定されたことから、小国町は、施設整備や受入体制の整備等、森林セラピー基地づくりを進め、利用者の増加を目指しています。

【森林セラピー基地 温身平】



森林セラピー基地 温身平

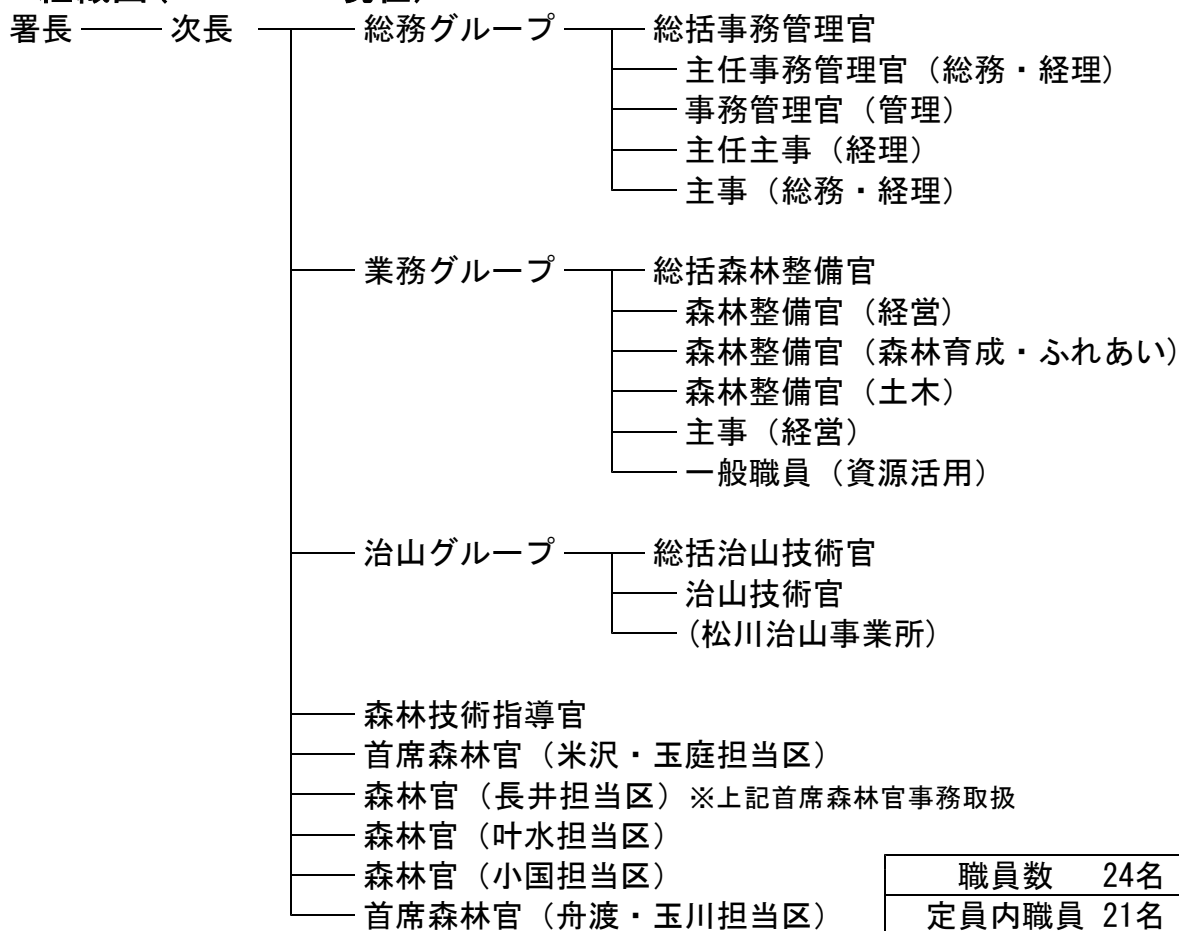
森林セラピー基地 温身平とは

森林セラピーは、森が持つ癒し効果をストレス解消や健康増進に役立てようとするものです。

平成31年3月現在、森林セラピー基地及びセラピーロードに全国で63箇所が認定されています(NPO法人森林セラピーソサエティ情報)。小国町が申請した「ブナの森 温身平」は、第1期に認定されています。

温身平は、飯豊連峰北側の山麓の溪流沿いにあり、風致探勝林55haを含む当該地域の面積は約300ha、その大半が国有林であり、ブナを中心とする天然林が広がっています。飯豊連峰への登山口でもあることから、観光や登山等の目的で多くの人々が訪れています。

VI 組織図(R4.4.1現在)



VII 沿革

明治22年	4月	宮城大林区署に「米沢派出所」を設置
明治25年	4月	宮城大林区署に「米沢小林区署」と「小国小林区署」を設置
明治40年	7月	米沢小林区署は、山形小林区署に統合
大正2年	6月	宮城大林区署を廃止し、秋田大林区署に移管
大正3年	8月	小国小林区署を東京大林区署に移管
大正13年	12月	大林区署は「営林局」に、小林区署は「営林署」に改称「米沢営林署」を設置
昭和13年	8月	小国営林署を秋田営林局に移管
昭和27年	3月	小国営林署旧庁舎を小国町大字緑町に新築
昭和32年	10月	米沢営林署旧庁舎を米沢市下花沢町に新築
平成7年	3月	「小国営林署」と「米沢営林署」を統合し、「小国営林署」と「米沢森林管理センター」に改組
平成11年	3月	組織再編により東北森林管理局の「置賜森林管理署」に改称
平成13年	8月	「米沢森林管理センター」を廃止
平成16年	12月	置賜森林管理署現庁舎を小国町大字岩井沢に新築



置賜森林管理署庁舎